

令和8年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 奈良県

農業委員会名： 葛城市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和8年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和5 年 7 月 20 日

任期満了年月日 令和8 年 7 月 19 日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	14	14
認定農業者	—	2
認定農業者に準ずる者	—	2
女性	—	1
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	9	9	9

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	995
農業経営体数	448

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	412
女性	114
40代以下	16

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	10
基本構想水準到達者	49
認定新規就農者	4
農業参入法人	1
集落営農経営	1
特定農業団体	0
集落営農組織	1

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑				計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	599	47				646

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

Ⅱ 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)		これまでの集積面積(B)		集積率(B)／(A)	
	646	ha	97	ha	15.0	%
課題	農業従事者の減少・高齢化等による遊休農地の増加、農地の分散が、農地の確保・有効利用を図る上での課題である。 不在地主等の農地が増加傾向にあり、対策を講じて利用集積を図る必要がある。					

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

② 目標

農地の集積の目標年度	15	年度	集積率	34	%
今年度の新規集積面積	27	ha	農地面積(C)	646	ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	124	ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)／(C)	19.2	%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2) 遊休農地の解消

① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積		
		うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	17	ha	17
課題	農地の利用状況調査の円滑な実施と遊休農地の所有者等への指導徹底、担い手への集積の説明が必要である。		

② 目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	12.0	ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	2.4	ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	0.0	ha
--------------------------	-----	----

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	—
-------------------------	---

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	2.3	ha
---------------------------	-----	----

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	5年度新規参入者	6年度新規参入者	7年度新規参入者
	7 経営体	4 経営体	6 経営体
	0.8 ha	0.2 ha	1.1 ha
課題	担い手の高齢化が進んでいるため、認定農業者制度や法人化の意義、メリット等について、対象者に周知を行い、担い手を確保する必要がある。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	2年度	3年度	4年度	平均
	19 ha	18 ha	16 ha	18 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積	2.0 ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限り。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限り。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	8 日/月	最適化活動を行う 農業委員の人数	14 人
		農地利用最適化推進委員の 人数	9 人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数		3 回
取組時期	取組項目	強化月間の内容
9月頃	遊休農地の解消	遊休農地発生防止のため農地の巡回調査を強化
12月頃	農地の集積	農地の利用意向の把握を強化
2月頃	新規参入の促進	研修会を踏まえて新規参入の促進を強化

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数		5	回
開催時期	随時	相談会名	新規就農ヒアリング
参加者数	5	開催場所	市役所庁舎
相談会の内容	新規就農者について助言や地元との調整を行う。		
開催時期	2月頃	相談会名	最適化推進研修会
参加者数	23	開催場所	橿原市
相談会の内容	新規参入についての情報交換を行う。		

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入
(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)